

道徳科学習指導案

指導者

1 日 時 令和6年12月 4日（水） 5校時

2 学 年 第1学年（8名）

3 主題名 「しんせつに する よろこび」 [B 親切、思いやり]

4 ねらい

親切にすると、みんなが笑顔になるわけを考えることを通して、困っている人を助けることは、相手だけでなく、その喜びを感じる自分や周りの人にも大きな喜びであることに気づき、身近にいる人に親切にしようとする心情を育てる。

5 教材名 「学校のかえりみち」
（「しょうがくどうとく いきるちから1」日本文教出版）

6 主題設定の理由

○主題観

本主題は、第1学年及び第2学年の内容項目[B 親切、思いやり]、「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。」に基づくものである。これは、第3学年及び第4学年では、「相手のことを思いやり、進んで親切にすること。」、第5学年及び第6学年では、「誰に対しても思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にすること。」に繋がっていく。

集団の生活において、自分のことばかりを考えたり、自分の思いだけを主張したりしては望ましい人間関係を構築することはできない。互いが相手に対して思いやりの心をもって接するようすることが不可欠である。低学年においては、家族だけではなく家の周りの人や学校の人々、友達などとの関わりが次第に増えてくる時期にある。児童がこれからの生活の中で多くの人と関わり、相手の立場を考えたり気持ちを想像したりすることを通して援助などをする行為はよりよい人間関係を築くために欠くことはできない。そこで、身近な人に広く目を向け、温かい心で接し、親切にすることの大切さについて考えを深められるようにと考え、本主題を設定した。

○児童観

○指導観

本教材は、駐輪された自転車のために、通ることができずに困っているおじいさんを見て、親切にすべきかと葛藤するゆうじとまことが、通りかかったお婆さんの姿から親切な行動をすることの大切さに気づくことを通して、周りの人達の気持ちを考えた行動は、相手の心を温かくするだけでなく、親切にした自分にとっても周りの人にとっても喜びにつながることに気づくことのできる教材である。

指導に当たっては、児童が主体的に考え、道徳的価値についての考えを深められるようにしていく。そのために次の4点に留意する。

- ① 導入では、身近にある親切な行為について、した側、された側の体験を問い、その気持ちについて考え、親切がなぜ大切なのかについて考えさせ、課題意識をもたせる。
- ② 展開前段では、「かわいそう」「知らない人」などの反応については、そう思った根拠を聞くことで、おじいさんに気持ちを向けていることに気づかせる。また、2人の姿から親切の難しさなど「親切」を様々な視点から捉えさせていく。また、お婆さんの行為を見て、自分ごととして考え始めた2人に共感させるようにする。
- ③ 中心発問では、みんながにこにこしているわけを、表情カードの数で考えさせる。その際、なぜその数にしたのか理由を説明させることで、親切にすることの意味を考えさせる。
- ④ 展開後段では、親切にして嬉しくなった時のことについて考えさせることで、親切にすることの嬉しさについての価値に気づくことができるようにする。

7 準備物 挿絵、ホワイトボード、短冊、表情図、道徳ノート

8 学習指導過程

	学習活動	○主な発問 ・児童の心の動き	○留意点●評価
導入 (3分)	1 「親切」について自分の経験を振り返る。	○今まで、親切にしたことがありますか。されたことがありますか。 ・保健室に連れて行ってあげた。 ・こけた時、大丈夫？と声をかけた。 ・教科書を見せてあげた。 ・一緒に遊ぼうと誘った。 ○親切にされたとき、どんな気持ちになりましたか。 ・嬉しい。 ・また、してほしい。 ・自分もしてあげたい。	○身近にある親切な行為について、した側、された側の体験を振り返り課題意識をもたせる。
		親切って、どうして大切なのでしょう。	
展開前段 (12分)	2 「学校のかえりみち」を読んで考え、話し合う。	○「どうしようか。」と顔を見合わせたゆうじとまことはどんなことを考えているのでしょうか。 ・かわいそう。 ・知らないおじいさんだしなあ。 ・恥ずかしいな。 ・おじいさんが困っているから自転車をどかした方がいいかな。 ・ぼくたち子供だから、まあいいか。 ・動かしたら、叱られないかなあ。	○「かわいそう」「知らない人」などの反応については、そう思った根拠を聞くことで、おじいさんに気持ちを向けていることに気づかせる。また、親切の難しさなど「親切」を様々な視点から捉えさせるようにする。

		○ゆうじとまことは、どんなことを考えながら自転車を片付けはじめたのでしょうか。 ・おばさん、やさしいな。 ・手伝おう。 ・もっと早くすればよかった。 ・おじいさんに悪かったな。 ・やっぱり助けないといけないな。	○おばさんの行為を見て、自分ごととして考え始めた2人に共感させる。
展開後段 (25分)		【中心発問】 ○みんながにこにこしているのはどうしてでしょう。 ・知らないのに助けてもらえて嬉しい。 ・優しい人に出会えたな。 ・手伝ってもらってよかった。 ・やさしい子たちだな。 ・おじいさんが喜んでくれていた。 ・おばさんを手伝ってよかった。 ・役に立てて嬉しい。 ・親切にすると気持ちがよかった。 【考えを深める発問】 ○2人は元気にかけながらどんなことを話したでしょう。 ・親切にすると気持ちがいいね。 ・次は、助けようね。 ・また、親切にしたいな。	○表情カードを用いて、親切にしたときの喜びや満足感を、視覚的にとらえることができるようにする。 ○ペアでの意見交換をし、多様な考えに触れることで、深められるようにする。 ○親切にする前と後を比べることで自分たちのした行為がみんなを嬉しい気持ちにすることに気づくことができるようにする。
	3 自分の生活を振り返る。	○親切はどうして大切なのでしょうか。 ・いい気持ちになるから。 ・みんながにこにこになるから。 ・みんながうれしいから。 ・ほっこりした気持ちになるから。	●困っている人を助けることは、自分も周りの人も大きな喜びであることに気づいている。 (道徳ノート・発言) 【キーワード】 ・親切にすると、気持ちがすっきりする。 ・自分も相手も嬉しくて、いい気持ちになる。

終末 (5分)	4 学習の振り返りをする。	○親切にして嬉しかったときのことを思い出してみよう。 ・優しくしたら、ありがとうってしてくれたのが嬉しかった。 ・分からない時に、教えてあげたらにっこりとしてくれた。 ・優しくしているのを見ると、気持ちがいい。	○親切にすることの嬉しさについて、自分との関りで考えを深めるようにする。 ○親切にする喜びについて教師の話から、さらに深く受け止める。
------------	---------------	--	---

9 板書計画



10 成果と課題（成果…○ 課題…●）

- 発問の後、児童が考える場面で、児童が発問や話を忘れてしまうので、教材文の一部を黒板に貼ったことは思考の手助けとなった。
- 授業の導入や前半の発問を短くコンパクトにすることで、中心発問で十分に児童の意見を吸い上げることができた。
- 教材文の中の挿絵がとても効果的であった。特に、低学年の児童は表情をよく見ているのでしっかりと活用できてよかった。
- 中心発問で「どの表情カードかな。」と問うことで、児童が理由を言いながらたくさん発表をすることができた。表情カードの違いも、きちんと理由をつけて言っていたので良かった。充実した対話となり対話を促すための工夫となった。
- 「しんせつってどうしてたいせつなんだろう。」というめあてを、「しんせつにするとどんないいことがあるのだろう」にするともっとよかった。児童から出た意見を見ても、いいことがたくさんあがっていたので、すっきりしたと思える。
- 前半の状況や気持ちがなかなか児童に捉えにくい面があった。同じような状況の経験が少ない児童にいかにわかりやすく状況を伝えていくか、しっかりと考える必要があると思った。

11 今後に向けて

- ・児童の思考が深まるような板書の工夫をする。
- ・日常生活での振り返りをするすることで、教材と自分の生活を結び付けて考えさせるまとめができるようにしていく。